

出演者プロフィール

指揮 及川 光悦

Mitsuyoshi Oikawa Conductor

1949年、北海道に生まれる。5歳よりピアノを学び、10歳の時、テレビ出演を機会に音楽家を志す。1967年、東京音楽大学器楽科、桐朋学園指揮教室入学。1975年8月、フランス・ニース国立音楽院主催国際指揮講習会を受け好評を博す。1975年10月、研究科在学中に推薦されパリ留学。エコール・ノルマル音楽院にてビエール・デルボー氏に師事、スコラ・カントルム音楽院指揮科・ピアノ科入学。1976年、ザルツブルグ・モーツァルト音楽院主催の国際指揮講習会を受けオトマール・スイトナー氏に師事、大いに才能を認められる。1977年帰国、故若城宏之氏に認められ札幌交響楽団において研鑽、数多くの演奏会に出演する。1978年、小澤征爾氏に師事。同年「札幌市芸術文化振興基金第1号」を受けアメリカ留学。小澤征爾氏のもとで研鑽を積み、1982年、「芸術家在外研修員」として文化庁によりミュンヘンへ派遣される。受入れ先であるクーベリックのバイエルン放送交響楽団、チェレビダグケのミュンヘン・フィルハーモニー管弦楽団、サバリッシュのバイエルン国立歌劇場管弦楽団にて各氏に師事、伝統的なドイツ音楽を吸収する。又ベルリン・フィル、ミラノスカラ座、パリオペラ座、パイロイト音楽祭、ペローナ音楽祭、ザルツブルグ音楽祭のリハーサル・本番・レコーディングに立ち会い研鑽を積み、1983年8月帰国、ただちに東響でデビュー、都響、札響、京響、新星日響、群響、神奈川フィルで共演、放送・レコーディングで活躍。1986年7月、日中文化交流の一端として中国から招待され、中国電影楽団、上海楽団と共演、交響組曲「東京」～「こもりうた・外山雄三作曲」の海外初演をはたし熱烈な歓迎を受ける。帰国後、日本テレビ「11・PM」、FM東京「世界の音楽をあなたに」出演、中国音楽界を紹介する。

1987年9月・10月、前年に引き続き中国より招待され、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもとで中国電影楽団、上海電影楽団と共演して絶賛を博し、両楽団より「常任客演指揮者」の称号を贈られ両国の文化交流に大きな役割を果たす。帰国後、FM東京「音楽の森」出演。1988年9月、中国電影楽団、上海電影楽団日中平和友好締結10周年記念・常任客演指揮者就任記念として、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもとで「文化使節」として公演し好評を博す。FM東京「モーニングジャーナル」・FMジャパン「Jウェーブキャットフィッシュ」出演。1990年6月、チェコ・スロバキア（ズリーン）マルティヌスフィルハーモニー管弦楽団にてヨーロッパ楽壇デビュー、11月、中国（北京）中国電影楽団にて故園田高弘氏と演奏会開催。12月、ソ連「モスクワ放送交響楽団」、ウクライナ国立フィルハーモニーオーケストラ（キエフ）、ヤロスラブリフィルハーモニーオーケストラにて演奏会開催。1992年9月、中国（北京）中国電影楽団にて日中外交正常化20周年記念特別演奏会を開催。10月、日本政府（外務省）・国際交流基金・ポーランド政府文化芸術省の援助のもとでポーランド・カトビツェ国立交響楽団と演奏会開催。

1993年3月、現在世界で屈指のヴィルトゥオーゾ集団である「ロシア・ナショナル管弦楽団」にてロシアピアノ界の巨匠であるニコライ・ペトロフ氏と共演、ウリヤノフスク国立交響楽団と演奏会開催好評を博し日本・ロシアの文化交流に尽力。12月、ハンガリー文化教育省の後援のもとでフランツ・リスト音楽院大ホールにてサント・ステファン交響楽団と共演。1994年10月、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもとで前年に引き続きハンガリー・サント・ステファン交響楽団と共演。ルーマニア文化省の後援のもとでヨーロッパの中でも長い伝統を誇る名門オーケストラ「ジョルジュ・エネスク・フィルハーモニー管弦楽団」と共演し、日本・ハンガリー・ルーマニアの文化交流、両国音楽家間の親善に大きく寄与。

1996年2月、ハンガリー・ドナウシンフォニックオーケストラと共演。1997年2月、日本政府（外務省）・国際交流基金の援助のもとでハンガリー・ソルノクシンフォニックオーケストラ、3月、ロシア名門オーケストラである「モスクワ・フィルハーモニー交響楽団」と共演し好評を博す。10月、名門オーケストラである「ブルガリア国立ソフィア交響楽団」と共演。帰国後テレビ朝日「徹子の部屋」に出演。1998年4月、ポーランド・アルトゥール・ルービンシュタイン・フィルハーモニックオーケストラと共演。1999年10月日本、ブルガリア文化月間10周年記念・国交回復40周年記念公演に招聘され「文化使節」として名門オーケストラである「ブルガリア国立放送交響楽団」と共演。2000年、「文化庁舞台芸術創作奨励賞選考委員」就任。2001年5月、名門オーケストラである「サンクトペテルブルグ交響楽団」（旧レニングラード交響楽団）と共演。2002年6月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団、ルーマニア「コンスタンツァ交響楽団・ガラツ交響楽団」と共演し大成功を収める。2002年10月、日本・ブルガリア文化月間に招聘され、「文化使節」としてブルガリア国立ソフィア交響楽団にてヴァイオリニストの天満敦子女史と共演。2004年4月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団と共演、大成功を収め「常任客演指揮者」に就任。2005年5月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団と共演。2006年6月、ブルガリア国立ソフィア交響楽団と共演。

2009年11月、ブルガリア文化の発展と普及への功績に対して、ブルガリア共和国文化省より「名誉表彰状」と「名誉章」を授与される。

2010年10月、ポーランド・トルン交響楽団と共演、ベルギー（ブリュッセル）にてトルン交響楽団と共演。

2011年10月、ポーランド（ビゴドシチ）ボメラニアン・パデレフスキー国立交響楽団と共演。ベルギー（ブリュッセル）にてポーランドEU議長国就任記念コンサートに招聘されポーランド・ボメラニアン・パデレフスキー国立交響楽団と共演。

ヴァイオリン アンナ・マリア・スタスキェヴィッチ

Anna Maria Staskiewicz Violin

アンナ・マリア・スタスキェヴィッチの受賞歴には、2006年にポズナン市で行われた第13回ヘンリック・ヴィエニヤフスキ国際コンクールのポーランド・ラジオ・コンクール部門における、モーツァルトのヴァイオリン協奏曲の演奏による第3位ならびに特別賞、ロズでの第5回カロール・シマノフスキ国際コンクールでの優勝、ジェロナ・ゴラにおける第16回バッハ全国コンクールでの優勝、また、イタリアでの第22回ヴァルセシア・ムジカ国際コンクールでのモーツァルトのヴァイオリン協奏曲演奏における最優秀特別賞などがある。

アンナ・マリア・スタスキェヴィッチは、ポーランド国内及び海外（例：アルバニア、ブラジル、中国、エストニア、ゲルジア、ドイツ、イタリア、リトアニア、ロシア、スコットランド、スロバキア、スイス、スウェーデン、トルコ）の演奏会、ヴァイオリンのソリストとして活躍する。これまでに共演した楽団としては、カトヴィツェのポーランド国立ラジオ交響楽団、ワルシャワ国立交響楽団、シンフォニア・ヴァルソヴィア・オーケストラ、アマデウス・ポーランド・ラジオ室内管弦楽団、レオポルディナム室内管弦楽団、トルン室内管弦楽団、また、ビゴドシチ、ルブリン、ロズ、ジェロナ・ゴラ、ポズナン等の各交響楽団との共演も行っている。他にも、シンフォニエッタ・クラコヴィア、シンフォニア・ヴィヴァ、アンカラ大統領府交響楽団、ゲッティンゲン交響楽団（独）、チューリッヒ室内管弦楽団、サンパウロ市立交響楽団などとも共演している。ソリストとして、多くの著名な指揮者と共に共演した。ミロスワフ・ヤツェック・ブワシュチック、ウカシュ・ポリヴィチ、マシミアノ・カルデイ、アグニエシュカ・ドゥチマル、ホセ・マリア・フォレンシオ、ロベルト・カバラ、ウラディミール・キラジエフ、イェジ・マクシミウク、ヴォイツェフ・ミフニェクスキ、マレク・モス、マキシム・ベンゲロフなどの指揮者たちである。ソリストとして、多くの有名なコンサートホールで演奏した。サンパウロ市立劇場、フランクフルト・アムメインのカイゼルサール、ワルシャワ国立フィルハーモニック、ポーランド・ラジオ局のW. レトスラフスキS1コンサートホールなどである。

2011年より、ポズナンのI. J. パデレフスキ音楽アカデミーでヴァイオリン助手を務めている。彼女はこれまで6回にわたり、国家文化遺産大臣の奨学金を得ている。クジャウスコ・ポモルスキ、ヴォイヴォドシツ・マーシャル並びにトルン市長から優秀音楽賞を受賞している。2002年には、ポズナン市から芸術奨学金を取得し、2007年には、文化芸術大臣からムロダ・ボルスカ（ポーランド青少年）奨学金も得ている。

ピアノ 長澤 晴浩

Haruhiro Nagasawa Piano

東京都出身。8歳よりピアノを始める。

16歳の時に青少年音楽協会主催で、故秩父宮妃殿下、故正田富美子様、ベルギー大使夫人ご列席で行われた「ベネフィット・リサイタル」（ベルギー大使館）の出演が、演奏活動の第一歩となる。

1988年、「第5回視覚障害者のための国際音楽コンクール」（チェコ）で特別賞受賞。

2010年、(株)ライズサーチ主催「第1回クラシック音楽演奏家オーディション」にて特別賞受賞。

1985年より現在までに7回の自主リサイタルを上野学園石橋メモリアルホール・津田ホール・JTホールアフィニスなどで開催。

他に2度のオーケストラとのピアノ協奏曲の共演やクロマティックハーモニカ、ヴァイオリン、フルート、ソプラノ、アルトサクソフォーンなどとの共演も多数行っている。

1986年、ザルツブルグ・モーツァルトウム音楽院、夏期講習会受講、同アカデミーコンサートに出演。

2010年、初のCD「長澤晴浩 ファーストセレクション [安らぎと愛] (MCM2005) をリリース、絶賛発売中。

1986年、1988年、故辻正行氏率いるプロ男声コーラス「クロスロード・シンガーズ」のヨーロッパ公演に同行し、ハイデルベルグ（ドイツ）にてピアノソロを、ザルツブルグ（オーストリア）では「クロスロード・シンガーズ」と共演。

ウィーン楽友会小ホール（ブラームスザール）にてボイスカルテットによるブラームスの「愛の歌」を共演。

1999年～、埼玉の楽譜点訳の会のお力添えの下、「オータム・コンサート」を毎年継続している。

2007年～、北海道函館に於いて「長澤晴浩と心を奏でる会」を毎年行っている。現在、演奏経験を生かして後進の指導にも当たっている他、(社福)日本点字図書館での点字楽譜の校正作業を初めとして、東京を中心とした楽譜点訳ボランティアグループでの楽譜点訳法の研究なども精力的に行っている。

また、(株)マイクロシー・エー・デー製作発売の点字楽譜学習ソフト「B'Score ビー・スコア」開発時のプロジェクトにも名前を連ね、現在まで、点字楽譜の仕組みなどのアドバイスをを行っている。

日本音楽文化交流協会会員、日本・ポーランド協会会員、株式会社ライズサーチ登録アーティスト、視覚障害者を中心としたクラシック音楽団体「新星78」会員、楽譜点訳「アダージュ」顧問、楽譜点訳の会「星」会員。

福井直歌、故若尾輝子、ジョージ・サンドール、バルント・ツァック、木村徹、他の各氏に師事。